
機動戦士ガンダム S E E D 外伝 ～死に行く戦士たち～

ぱんだ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

機動戦士ガンダムSEED外伝　く死に行く戦士たち

【Nコード】

N2411C

【作者名】

ぱんだ

【あらすじ】

機動戦士ガンダムSEEDの外伝。脱走兵の物語。（機体は主に「ダガー」）

「オラア!!!」
「
そういったのは“ストライクダガー”を駆るチャーリー・ヴァイ
フレットだった。」

C・E・71・10・4　「ブレイク・ザ・ワールド」から一
日経ち、地球の住民が騒ぎ始めたころ、そんな事件とは遠いある宇
宙の宙域。後ろにはステーションのようなものがあった。

そして、チャーリーたち脱走兵はこのステーション“ヴァイフレ
ットステーション”を守っていたのだ。

そう、チャーリーはこの隊長なのだ。

そしてチャーリーの周りを援護する機体が四機。

“バスターダガー”を操るリリカ・ミケル。

“105ダガー（エールストライカー）”を操るリクナ・ラクテ
イー

“ウインダム（ランチャーストライカー）”を操る双子のジャッ
ク・ロナックとウエンス・ロナック。

脱走兵の機体の数はチャーリー達を含めて三十機。脱走兵として
は多いほうである。

そして部隊名はヴァイフレット隊である。

チャーリー達が脱走兵になった理由は、地球軍の核という行為が
許せなかった。

ラクス率いる三隻同盟に仲間入りすればよかったのだが、探した
結果見つからず、このような形でしか地球軍と対立する方法はなか
ったのだ。

このヴァイヲレット隊の機体はほとんどがダガーだ。量産に適した機体。だが、力は至って強いわけではない。そのため一機拾うごとにストライカーパックを探さなければいけないのだ。でなければこの隊は負ける。今ではすべての“ダガー”にストライカーパックが装着されている。

今このステーションに攻撃を掛けているのはザフト。なぜか目的も分からず攻撃を仕掛けてきたのだ。

敵母艦はナスカ級二隻、MSが十機である。たったの十機だが、全機が強い。

全機“ザクウォーリア”で。五機がガナーウィザード。そして残りの五機がブレイズウィザードだった。

始めはガナーウィザードのオルトロスの一斉射で攻撃を仕掛けられ、ヴァイヲレット隊のMSは急いで発進した。

まさかザフトが攻撃を仕掛けてくるなんて予想外である。

ヴァイヲレット隊の目的は「地球軍を出来るだけ殲滅する」である。なのにザフトが攻撃を仕掛けてきたため一瞬チャーリーは迷った。ザフトは味方の立場であってほしいという願いだったからだ。地球軍とザフトを敵に回してしまうと軍ではないこの隊は持たないからだ。

最初は投降しようとも思った。

だが、敵が必ず命の保障をするとは限らない。

その判断で発進、攻撃を命じたのだ。

ヴァイヲレット隊にある艦はドレイク級の一隻のみ。

艦とは言えドレイク級では何の役にも立たない。

だからこうしてMSだけで戦っているのだ。

味方の“ダガー”は次々と破壊されていく……

敵はまだ一機も破壊されていない。

只今の戦況は十二（ヴァイロレット隊）対十。^{ザフト}
もう半分以上が破壊されていた。

チャーリーは悩んだ。

ここで撤退させてもザフトが攻撃をやめるとは限らない。

だが、このまま撤退させずに攻撃を続けても負けるだろう。

チャーリーは戦闘をしながらも考えた。

チャーリーはモニター越しに全員に伝えた。

「ヴァイロレット隊、隊員に命じる。只今の状況は十二対十。数はこちらのほうが勝^{まさ}っているが、相手は強い。私、リリカ、リクナ、ジャック、ウエンズ以外の隊員は後方で支援しろ！」

幸運なことに、生き残っていた“ダガー”のほとんどがランチャー・ストライカーを装備していた。

チャーリー達は前方に出て十機を潰しに向かった。

チャーリーは一機の“ブレイズザクウォーリア”に向かった。

隊長用に二本装備されているビームサーベルを両方とも引き抜き、その“ザク”に振りかかったが、“ザク”は紙一重で避け、ビームトマホークを振ってきた。

チャーリーはそれをうまく避けきった。

リリカは苦戦を強いられていた。

ビームサーベルが装備されているとはいえ、長距離攻撃、後方支

援が得意なリリカにはビームサーベルは使用しづらかった。

「つくー!! あたしには近距離苦手なんだよ!!」
ビームサーベルをひたすら振り回すが、当たるはずもない。

チャーリーがやつと一機を破壊した。

そしてもう一機を倒すため、移動する。

今度の敵は“ガナーザクウォーリア”だった。

こちらに気づき、オルトロスを構えてくる。

そして放った。

ドオオオオン!!!

チャーリーはそれをシールドで防ぎ、ビームサーベルでオルトロスの銃口を叩き切った。

近距離過ぎて、敵はビームトマホークを出すのが遅れ、チャーリーに止めを刺される。

“ザクウォーリア”は爆散した。

リクナは二機の“ブレイズザクウォーリア”を相手にしていた。

ビームサーベルの二刀流で近距離戦を得意とするリクナにとっては“ザク”二機などお手の物だった。

「行くぜー!!!」

リクナはビームサーベルを華麗に振り回し、“ザク”に切りかかる。

二機ともすぐに破壊した。

ジャックとウェンズは一機の“ブレイズザクウォーリア”を相手にしていた。

双子であるジャック（兄）とウェンズ（弟）は一人ではさほど強くない。

だが、二人が揃う事で強大な力を生み出すのだ。

「行くよ!!! お兄ちゃん!!!」

「ああ！！」

二人ともビームサーベルを引き抜き、一機に襲い掛かった。二本のサーベルが突き刺さり、爆散した。

リリカは何とか一機を破壊することが出来た。

その後何とかすべてのMSを破壊し、母艦も破壊したが、チャーリーは今後のことが心配だった。

これがきつかけできつとザフトはさらに部隊を派遣してくるだろう。

発進前にあつた機体の数はチャーリー達を含めて三十機。

戦闘後無事なMSはチャーリー達を含めて八機。完敗である。

チャーリーは生き残った隊員たちをステーションの格納庫に集めた。

MSパイロット、オペレーターなど合わせて隊員は二十人。だが、パイロットは八人。

次に戦闘が行われた際は負けるかもしれない……

チャーリーはそう思った。

格納庫に二十人が集まり、整列する。

静まったところでチャーリーが言葉を発した。

「諸君。我々の隊。ヴァイレット隊の隊員は先の戦闘で多くの戦友をなくした。もし次またザフトや地球軍が襲って来たらこの基地は持たないだろう。諸君で決めてくれ。地球軍に復帰する道を選

ぶか、それともこの基地に残り、死の覚悟で戦うか。今すぐ考えてくれ」

辺りは一度ざわついたが、静かになり。一人の隊員が行った。

「我々はこの基地を捨てて地球軍に戻るなど出来ません!!」

我々は戦います!!」

それに続き、すべての隊員が声を合わせていった。

『戦います!!』と。

チャーリーは笑顔を作った。

次の日またザフトが攻めてきた。

昨日より機体の数が少ない。

ナスカ級一隻。“ブレイズザクウォーリア” 5機。

ヴァイロレット隊のMSはすぐに発進した。

もちろんチャーリー達も。母艦のドレイク級も発進する。

ドレイク級とナスカ級は攻撃を始めた。

それに続き、“ザク”も攻撃を始める。

チャーリーはビームサーベルを一本引き抜き、“ザク”に振りかかった。

だがそれを“ザク”は軽々と避けた。

どうやら昨日の敵より強いようだ。

リリカも一機の“ザク”を相手に戦っていた。

“ザク”に高エネルギー収束火線ライフルを放つ。

「死にな!!」

だが、“ザク”はそれを盾で防ぐ。

“ザク”の盾は破壊される。

リリカはそれが機体かと思い、安心した。

だが、“ザク”は煙から出てきて“バスターダガー”を真つ二つに切った。

「キヤアアア!!!!」

そして、名もなきパイロット達の三機も撃墜された。

残り四機。

チャーリーはリリカが撃破される声を聞いた。

<キヤアアア!!!>

名もなきパイロットの声も。

<リリカさん!!! うわアア!!!>

<うぐっ! アアア!!!>

「ツク・・・隊員が・・・」

チャーリーは全員に言った。

「基地のもの、艦のもの、そしてパイロットに告ぐ。脱走兵達の集まり、ヴァイフレット隊は本日、本時刻を持って解散だ!」

チャーリーはそう言ったが、リクナから通信が入った。

<俺は逃げねえよ! 解散なんて・・・俺は許さねえ!!!>

そして、ウエنزからも

<僕だつて解散なんて許しません!!!>

ジャツクからも

<俺だつて許さねえ!!! 『死ぬ覚悟で』つて言ったのは隊長。

あんたじゃないですか!>

「みんな・・・」

チャーリーの目からは大量の涙が溢れ出していた。

全員が必死で戦った。

チャーリーは戦いながら死に行く者の声を聞く。

リクナが、

<う、うわアアアア!!!!!!>

ウエンスが、

<う、お、お兄ちゃん!!! うわアアア!!!>

続いてジャックが、

<ウエ、ウエンス!!! うわアアア!!!>

皆が死んでいった。

そして残るはチャーリー一機。

五機の“ザク”がチャーリーに向かってくる。

チャーリーは心を決めた。

目を瞑り、耳を澄ました。

何も聞こえない。だがチャーリーには聞こえた。

何かが。

チャーリーの機体はビームトマホークによって傷だらけになり、爆散する。

母艦のドレイク級もナスカ級のビーム砲によって破壊された。

そして・・・ヴァイヲレット隊、全滅。

この事件は年表にも載らないだろう。

誰も知らなかっただろう。脱走兵達の勇姿を。今日この日まで。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2411c/>

機動戦士ガンダムSEED外伝 ~死に行く戦士たち~

2010年10月11日00時50分発行